



F U S O R E P O R T



第64期 中間報告書

2020年4月1日から
2020年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



トップインタビュー (Q&A)



株主の皆さまには平素より
格別なご理解とご支援を賜り、
誠にありがとうございます。
心より感謝申しあげます。

代表取締役会長
藤岡 実佐子

代表取締役社長
杉田 真一

影響は、全般的には限定的で、当第2四半期連結累計期間の売上高は203億4千万円(前年同期比0.0%増、6百万円増)、営業利益は46億2千9百万円(同6.1%増、2億6千4百万円増)、経常利益は45億5百万円(同2.3%増、1億百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億8千6百万円(同2.4%増、7千2百万円増)の増収増益となりました。

Q1 当上半期の業績についてお聞かせください。

当社グループは従業員への新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、各事業において新設備の本格稼働を進め、供給体制を強化する事で経営基盤の一層の強化に取り組みました。新型コロナウイルス感染拡大の当社グループ業績への

Q2 中期的な事業の見通しに関してお聞かせ頂けますか？

新型コロナウイルス感染症への対応という新しい社会課題に直面し、従来通りでは回復の見込みが少ないビジネスがある一方、ニューノーマル時代に向けての新しい需要も喚起されています。

日本でもサービスの始まった5G関連(第5世代移動通信システム)により、今後スマートフォンの買い替え需要が本格化します。またデータ量も爆発的に多くなることから、データセンターのサーバーで使用される半導体も大きく増えると想定されます。AI、自動運転等でも半導体需要が増加します。これら最先端半導体研磨剤用途向けに当社のコロイダルシリカの需要は更に拡大が見込めます。

一方、鹿島事業所のリンゴ酸新設備からの製品も徐々にアジア地区のお客様での採用も増えてきており、今後更に、海外での販売増が期待できます。

Q3 杉田新社長についてもっと知りたいのですが？

藤沢薬品工業(現アステラス製薬)で25年間、研究開発に携わってきました。身体を動かすことが好きで、時間を見つけてはジムで汗を流し、週末にはゴルフやジョギングで気分転換をしています。

好きな言葉は「ケセラセラ(Que Será, Será):なるようになるさ」。一見なげやりな言葉のようですがそうではありません。挫けずに正しい道を歩むべく努力すれば、いつか良い日が来る。何事も前向きに捉えチャレンジする事が大切です。

Q4 社長就任後、積極的に取り組んでいかれたいことは？

長期にわたり成長可能な新しいビジネス基盤を構築するために、研究開発に経営資源を投下していきます。幸い、毎年若くて意欲のある優秀な人財が当社に入社してくれています。世界という大きな舞台で、さまざまな新しいことにチャレンジしてもらい、将来を担う人財づくりに力をいれていきま

す。そしてライフサイエンス事業・電子材料事業に続く第3の柱となる事業のタネを出来るだけ早期にたくさん蒔き、早く収穫できればと思っています。

また、海外での事業展開を強化します。現在海外販売比率は4割程度ですが、中期的には5割以上とし、世界で活躍する会社にしていきたいと考えています。

Q5 最後に、杉田新社長から、株主の皆様へメッセージをお願いします。

2020年度の当社グループの業績は、コロナ禍の影響はあるものの、連結利益計画に対しては順調に進捗しております。年度計画の貫徹に向けて、グループ一丸となり取り組んでまいります。

盤石な経営体制の構築とさまざまな取り組みを行ってまいります。その中で着実に利益成長を遂げ続けることで、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





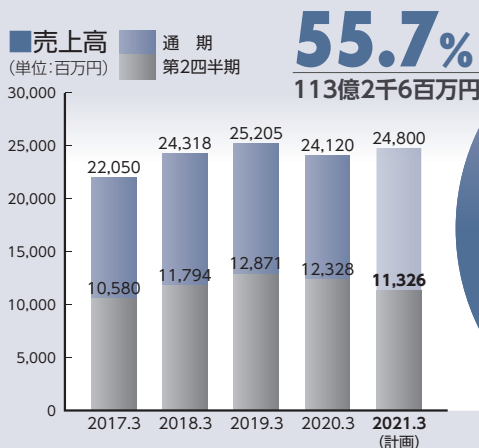
事業概況

ライフサイエンス事業



ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が113億2千6百万円（前年同期比8.1%減、10億2百万円減）、営業利益は17億1千4百万円（同27.3%減、6億4千5百万円減）となりました。

日本においては、前連結会計年度に引き続き、原料価格に連動して販売価格が変動する契約となっている製品の販売単価が低下したことに加え、飲料用途等、外出自粛による経済低迷の影響を受けた業界向け製商品の販売が減少しました。また、海外子会社においては、足元では持ち直しの兆しはあるものの、中国、米国の経済の落ち込みの影響を受けました。以上の要因により、売上高は前四半期連結累計期間を下回りました。営業利益は、原料価格の低下によるコストダウン効果はあったものの、新規設備の稼働に伴う減価償却費の増加によるコストアップや売上高減少の影響により、前四半期連結累計期間を下回り、減収減益となりました。



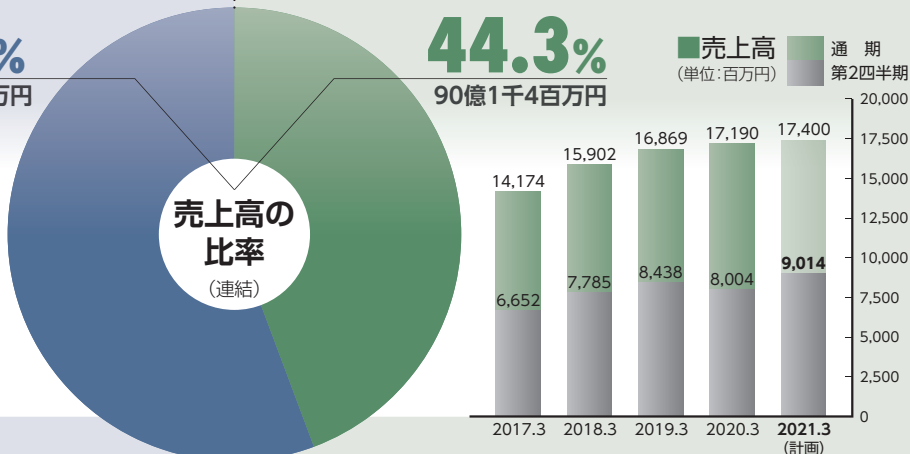
LE

電子材料および機能性化学品事業



電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が90億1千4百万円（前年同期比12.6%増、10億9百万円増）、営業利益は35億7千3百万円（同36.7%増、9億5千8百万円増）となりました。

半導体市場は米中対立等の懸念材料はあるものの、デジタル化の進展に伴うデータ量の増大によるサーバー需要の増加等により引き続き堅調に推移しました。さらに、半導体の微細化の進展に伴い、当社製品の超高純度コロイダルシリカの採用も増加しています。在宅勤務の進展によるトナー需要の減少等により、ナノパウダーの売上は減少しましたが、前連結会計年度から引き続き在庫を積み増すユーザーもあり、超高純度コロイダルシリカの売上が堅調に推移した結果、売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。営業利益は、売上高の増加、増産によるコストダウン効果により、前四半期連結累計期間を上回り、増収増益となりました。



特集 ESGへの取り組み

TOPICS ① SDGs

扶桑化学工業株式会社は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

従来から取組んできた、「製品を通じて社会に貢献する企業」として、さらに10年先を見据えて、両事業部門それぞれの取組みを始めています。ライフサイエンス事業では「食品添加物の開発で食品廃棄ロスを削減する」、電子材料事業では「超高純度コロイダルシリカの開発・生産で、デバイスの高精細化・高性能化に貢献し、社会インフラに寄与する」企業を目指して事業に取り組んでいます。

当社ウェブサイトの「ESG」コンテンツ内に、新たにSDGsへの取組みを紹介するページを追加しました。



TOPICS ② 企業紹介動画



こちらからご覧いただけます。
(通信料が発生する場合があります)

鹿島事業所に完成した当社の新しいリンゴ酸設備、京都事業所に増設された超高純度コロイダルシリカの製造設備、更には東京研究所や当社製品を支える品質管理の現場を新たに加え、会社全般を紹介する約14分の新しい動画を公開しました。

TOPICS ③ 「ホワイト物流」推進運動

当社は、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、自主行動宣言を提出いたしました。

「ホワイト物流」推進運動は、深刻化が続くトラックの運転者不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化や、女性や高齢の運転者も働きやすい労働環境の実現に取り組むものです。

当社は、これまでも物流事業者と連携しながら、運転者不足に対応した環境と人に優しい物流システムの構築に取り組んでまいりました。今後も、取引先の協力のもと、一層の物流効率化に取り組む、物流事業者の労働環境の改善を着実に推進し、物流事業者との連携を通じて、持続可能な物流の実現を目指してまいります。



写真はイメージです。

TOPICS ④ 新型コロナウイルスへの対応

当社は、顧客への製品供給に影響が出ないよう、各事業所においてマスクの着用、アルコール消毒、検温、換気等の三密の回避といった新型コロナウイルス感染予防対策を実施・徹底しています。

通勤時の感染リスク軽減対策として導入した時差出勤やテレワークも、新しい働き方として定着してきています。





連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2020年9月30日)	前連結会計 年度末 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産	38,864	35,499
現金及び預金	20,016	16,468
受取手形及び売掛金	9,773	10,274
商品及び製品	6,590	6,369
仕掛品	515	456
原材料及び貯蔵品	1,506	1,282
その他	462	648
固定資産	32,295	33,723
有形固定資産	27,427	28,891
建物及び構築物(純額)	10,370	10,701
機械装置及び運搬具(純額)	9,291	10,609
土地	6,887	6,890
建設仮勘定	515	307
その他(純額)	362	382
無形固定資産	2,237	2,423
投資その他の資産	2,630	2,408
投資有価証券	971	852
長期前払費用	216	40
繰延税金資産	1,240	1,299
その他	201	216
資産合計	71,160	69,222

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2020年9月30日)	前連結会計 年度末 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債	6,555	7,096
支払手形及び買掛金	1,817	2,083
未払金	2,030	2,883
未払法人税等	1,212	940
その他	1,494	1,187
固定負債	2,000	1,836
繰延税金負債	120	121
退職給付に係る負債	1,555	1,601
その他	324	114
負債合計	8,555	8,933
純資産の部		
株主資本	61,370	59,100
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	52,220	49,950
自己株式	△4	△4
その他の包括利益累計額	1,234	1,188
純資産合計	62,604	60,289
負債純資産合計	71,160	69,222

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2020年4月 1日から 2020年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年9月30日まで)
売上高	20,340	20,333
売上原価	12,417	12,760
売上総利益	7,923	7,572
販売費及び一般管理費	3,293	3,207
営業利益	4,629	4,364
営業外収益	46	76
営業外費用	170	37
経常利益	4,505	4,403
特別利益	3	57
特別損失	12	104
税金等調整前四半期純利益	4,496	4,356
法人税等	1,410	1,343
四半期純利益	3,086	3,013
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,086	3,013

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2020年4月 1日から 2020年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,014	5,915
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,558	△1,729
財務活動によるキャッシュ・フロー	△821	△820
現金及び現金同等物に係る換算差額	△142	△150
現金及び現金同等物の増減額	3,492	3,215
現金及び現金同等物の期首残高	16,083	10,223
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,575	13,439

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ19億3千7百万円増加し、711億6千万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ3億7千7百万円減少し、85億5千5百万円となりました。これは主に、未払金の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ23億1千4百万円増加し、626億4百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

Point 2

(連結損益計算書)

当第2四半期連結累計期間における連結業績は、外出自粛の影響を受けて飲料用途での果実酸類の販売が減少しましたが、デジタル化の推進に伴うサーバー需要の増加等で半導体市場が堅調に推移したため、超高純度コロイダルシリカの販売が増加しました。その結果、売上高は、前第2四半期連結累計期間を上回ることが出来ました。

営業利益では、リンゴ酸新設備の減価償却費の増加による減益要因はありましたが、原材料の仕入価格の低下や、超高純度コロイダルシリカの生産量増加による原価低減等の増益要因により、前第2四半期連結累計期間を上回りました。

Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

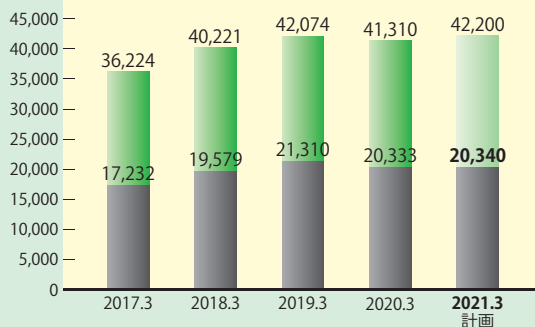
当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)=税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ34億9千2百万円増加し、195億7千5百万円となりました。



業績ハイライト(連結)

売上高 (単位: 百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



営業利益 (単位: 百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



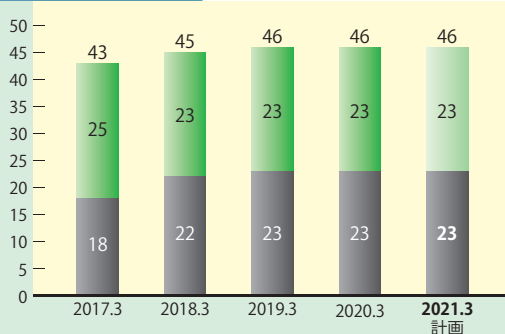
償却前営業利益 (単位: 百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期



配当の状況 (単位: 円)

■ 期末配当 ■ 中間配当



第2四半期と通期における業績の推移

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(計画)
売上高 (百万円)	17,232	36,224	19,579	40,221	21,310	42,074	20,333	41,310	20,340	42,200
営業利益 (百万円)	4,553	9,867	5,424	10,537	5,243	9,283	4,364	8,830	4,629	8,150
経常利益 (百万円)	4,459	10,038	5,445	10,367	5,623	9,854	4,403	8,954	4,505	8,250
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,056	6,895	3,767	6,592	3,883	6,881	3,013	7,014	3,086	5,600
償却前営業利益 (百万円)	5,202	11,209	6,063	12,150	6,281	12,327	6,432	13,362	7,117	13,550
1株当たり当期純利益 (円)	86.08	194.22	106.11	185.67	109.38	193.81	84.87	197.56	86.92	157.73

株式情報

F U S O R E P O R T

株式の状況

(2020年9月30日現在)

●発行可能株式総数：95,000,000 株

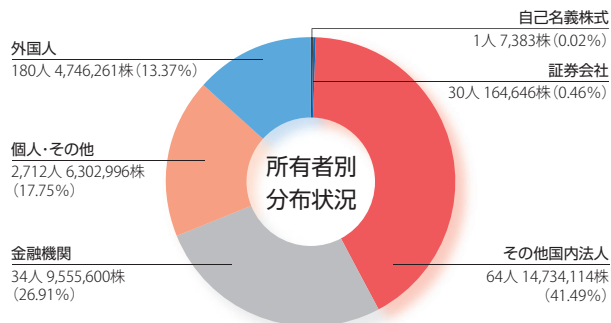
●発行済株式の総数：35,511,000 株

(自己株式が 7,383 株含まれています。)

●株主数：3,021 名

株主の分布

(2020年9月30日現在)



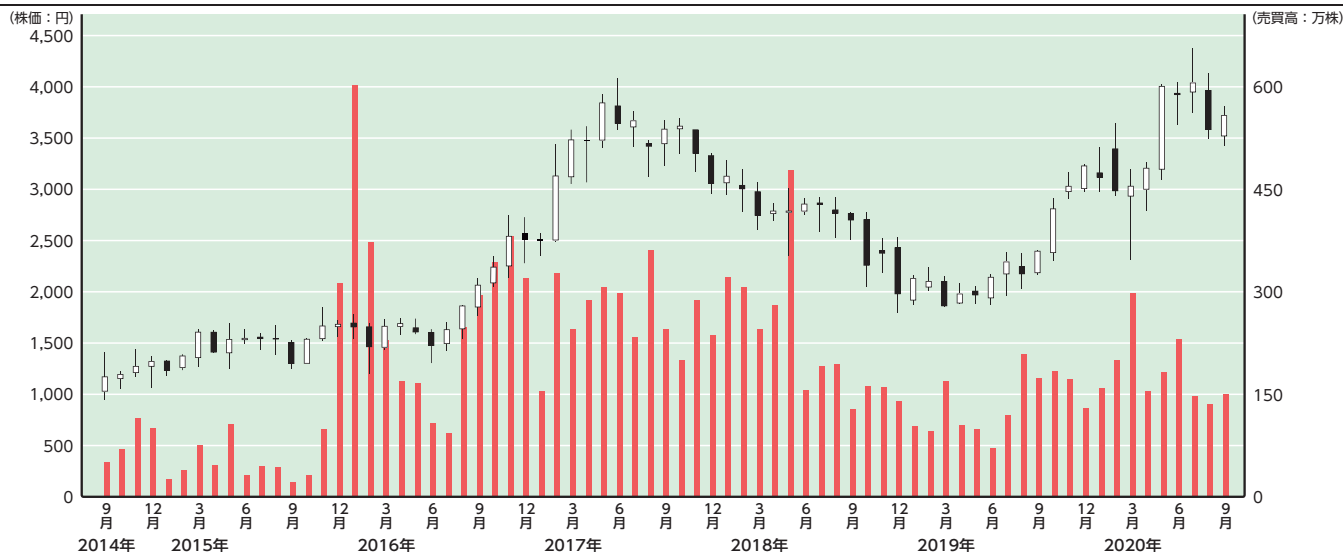
大株主

(2020年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社 壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,044,500	8.58%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,585,200	7.28%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
株式会社りそな銀行	792,500	2.23%
株式会社百十四銀行	596,400	1.68%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

株価の推移※





会社概要

会社概要

- 商号** 扶桑化学工業株式会社
■創業 1952年(昭和27年)
■設立 1957年6月24日(昭和32年)
■資本金 43億3,404万7,500円
■本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号
 (日生伏見町ビル新館5階)
 TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社** 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
■事業所
 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
 京都事業所
 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
 (かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
 十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社** 株式会社扶桑コーポレーション
 (国内)
- 主要子会社** 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
 (海外) PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
 FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

役員

(2020年9月30日現在)

- 名誉会長および取締役**
 ファウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
 代表取締役会長 藤岡 実佐子
 代表取締役社長 杉田 真一
 専務取締役 政氏 晴生
 (電子材料事業部長 兼 イノベーション推進室管掌)
 専務取締役 谷村 隆史
 (ライフサイエンス事業部管掌 兼 企画開発室管掌)
 取締役 梶本 源樹
 (ライフサイエンス事業部長 兼 営業企画部長)
 取締役 多田 智美(社外)
 取締役 監査等委員 赤澤 敬敏(社外・常勤)
 取締役 監査等委員 木下 善樹(社外・独立)
 取締役 監査等委員 村上 敬司(社外・独立)
 取締役 監査等委員 木山 静美(社外・独立)
- 執行役員**
 執行役員 宮本 典和
 (ライフサイエンス事業部 生産本部長 兼 生産部長 兼 新大阪事業所長)
 執行役員 伊藤 裕之
 (管理本部長 兼 人事部長)
 執行役員 藤岡 篤
 (企画開発室長)

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<https://www.fusokk.co.jp/>)

- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、1株につき23円となります。期末配当金は1株当たり23円の予定で、当期の年間配当金につきましては、1株につき46円を予定しています。



<https://www.fusokk.co.jp>



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。